

### 金子校区の人口

男 5,708 人  
 女 6,046 人  
 計 11,754 人  
 世帯数 5,446 世帯  
 (平成 27 年 6 月末日現在)

## 地域交流センターだより

### (ふれあい金子)



(発行所)

庄内町一丁目 14 番 7 号

地域交流センター

電話 34-6320

FAX 34-3289

E-mail

kanekou@city.nihama.ehime.jp

## 金子校区文化祭のお知らせ

日 時 平成二十七年十一月八日(日)  
 九時から

場 所 金子小学校

★バザー券の売りについて

※ 当日販売もしますが、売り切れる場合もありますので、出来るだけ前売り券をお買い求めください。

※ 十月下旬から各自治会を通して販売します。

※ 交流センターでも販売していますので、お越し下さい。

(前売り券)

- ・ うどん・ケーキセット 各 300 円
- ・ パラ寿司・いなり寿司・赤飯 各 280 円
- ・ おにぎり 200 円



★作品募集

※ 各自治会を通じるか、直接交流センターに申込書を提出してください。(小・中学生は除く)

※ 申込書は自治会・交流センターに置いてあります。

※ 締切 十月三十日(金)です。

※ 文化祭の詳細は、十一月下旬配布予定のパンフレットをご覧ください。

金子校区文化祭実行委員会



### 「3 世代交流早朝ラジオ体操 & 軽スポーツ教室」

金子校区体育振興会 大西 政年

8 月 29 日(土) 金子小学校体育館にて毎年恒例の金子校区 3 世代交流早朝ラジオ体操&軽スポーツ教室を開催しました。

今年は落語を見物した後、輪投げやラダーゲッターなどの軽スポーツを行いました。高得点になると歓声が上がリ、大変盛り上がりました。

早朝より参加してくださいましたみなさんお疲れ様でした。



## 第 65 回新居浜市美術展覧会

芸術の秋に触れてみませんか?

ご来場をお待ちしております。

会 期

前期 平成 27 年 10 月 24 日(土) ~ 10 月 29 日(木)  
 洋画・版画・写真・工芸(陶芸・美術工芸・彫塑立体)

後期 平成 27 年 10 月 31 日(土) ~ 11 月 5 日(木)  
 日本画・書道・デザイン・華道

(会期中は無休、ただし 10 月 30 日(金)は  
 入れ替えのため展示はありません)

時 間 午前 9 時 30 分 ~ 午後 5 時 30 分

ただし、10 月 29 日(木)、11 月 5 日(木)

は午後 4 時まで

場 所 新居浜市立郷土美術館

入 場 無 料

ロビーコンサート 日 時: 平成 27 年 10 月 24 日(土)

午前 11 時 ~ 11 時 20 分

場 所: 新居浜市立郷土美術館 1 階ロビー

「鳥嶋民謡会による民謡」

問合せ スポーツ文化課 65-1303



## 一宮神社

その一

ふるさと探訪シリーズ

いづくじんじや  
 わどう ねん がつ おおみしま おおまつみしん だいらいしん こうらいりゅうしん かんせい  
 和同二年八月(七〇九)、大三島から大山積神、大雷神、高雷龍神を勧請して、新居郡の  
 みや いづくじんじや はじ ふる れきし じんじや  
 一の宮としたのが、一宮神社の始まりです。古い歴史のある神社であることがわかります。  
 こ とうしゃやかやの いえ こうせ じょうせんほうし で いしづち れいほう ひら  
 その後、当社社家矢野さんの家から高僧、上仙法師が出て、石鎚などの霊峰を開きました。  
 じょうせん いちどおも だ じょうせんほうし した さがてんのう ちよくがんしょ  
 (上仙さん)をもう一度思い出してみよう) 上仙法師と親しかった嵯峨天皇の勅願所  
 てんのう とうけい じんごうしやういち いづくだいまじやん ちよくがん てんのう めいれい きがん  
 として、天皇の崇敬もあつく「神号正一位一宮大明神」の勅願(天皇の命令による祈願)  
 さがてんのう いづくじんじや けんじやう かく いづくじんじや しゃほう  
 を嵯峨天皇が一宮神社に献上しました。この額は、一宮神社の社宝となっています。  
 しゃでん てんじやう ねん こばやわわかかけ ひき もうりぐん  
 社殿は、天正一三年(一五八五) 小早川隆景の率いる毛利軍によって焼かれてしまいました。  
 ご もうりけ かずかず いへん お しんばつ おそ げんわ ねん  
 しかし、その後、毛利家に数々の異変が起こったため、これは、神罰だと恐れ、元和六年  
 もうりながとかみ まつやまはんしゆかとう さばとう きやうどう しゃでん さいけん  
 (二六二〇) に、毛利長門守と松山藩主加藤左馬頭との協同で、社殿を再建しました。そし  
 て、長州萩の城下に一宮神社の分社をまつりました。